



カトリック六甲教会 教会報



室津の「聖なる中休み」

1587年7月24日、豊臣秀吉は「伴天連追放令」により、突如としてキリスト教宣教を禁止し、イエズス会員の国外追放を命じ、高山右近をはじめ、他のキリシタン大名たちにも棄教を迫りました。1580年代に飛躍的に信徒数が増加していた日本の教会にとって、この出来事は青天の霹靂とも言える大きな試練でした。来年2月、列福が決まった高山右近が、この時、大名としての地位と領地を捨てて棄教を拒んだのは有名な話ですが、皆が彼と同等の信仰に恵まれていたわけではありません。当時のポルトガル人イエズス会員、ルイス・フロイス師の『日本史』第2部103章には、この事件の直後、室津（現在の兵庫県たつの市御津町）に滞在中のオルガンティーノ神父に会いにやって来た京阪神の信徒たちの様子が生き生きと描かれています。

同書に引用された1587年12月15日付けのオルガンティーノ師の手紙によると、右近と同じころ棄教を迫られた小西行長は、あっさり棄教を決意し、自領の室津に滞在していたオルガンティーノ神父を平戸に退去させようとしていました。行長の靈魂の危機と、それまで司牧してきた京阪神の信徒たちの行く末を案じたオルガンティーノ神父は、危険を冒して室津にとどまり、度重なる要請の末、ようやく行長を室津に来させます。やって来たとき「その顔は地獄から来た人の相をおびていた」という彼の態度は、終始、冷淡でした。そんな彼にオルガンティーノ神父は、「私はあなたの靈魂と、都のキリシタンを守るため、ここにとどまることにした。あなたの靈魂が助けを必要としているとき、私が遠くに行ってしまったらあなたを助けてあげられないから。」という意味のことを語りかけます。その言葉に行長は泣き出さんばかりになり、それまでの冷淡な態度を一変させました。ゆるしの秘蹟を受け、再び信仰の試練を受けることになったら二度と棄教しない決意をしたのです。そして、実際にオルガンティーノ神父と、たまたまその日、神父に会いにやって来た追放の身の高山右近を、自らも危険を冒して、自領の小豆島に匿うこととなります。この同じ時、三箇マンショ（元和の殉教者、三箇アントニオの父）や、京都からの信徒数人もやってきて、翌日の日曜日、皆がゆるしの秘蹟を受け、御聖体を拝領した、と述べられています。

高山右近が、「日本での戦においては、通常五千ないし一万人が、単に悪魔を愛し些少の世俗的利益を得んがために命を捨てる。しかも彼らが死ぬだけでなく、その家族全員が蹂躪され、破滅させられ、敵から思いのままの仕打ちを受ける。現下我らが直面しているのは、その悪魔との戦いではないか。この戦で死ぬことは、キリストと共に勝利者となるこ

とであり、この徳行によって、キリストの家族である当日本の教会は庇護されるのである。」と語ったのは、この室津での分かち合いの場のことでした。それに対して全員が心の底から賛同したと記されています。その翌日、各人はそれぞれの目的地に向かって旅立って行きました。皆で過ごしたこのひとときを振り返り、オルガンティーノ神父は、「神が私たちの弱さを力づけるため与えて下さった聖なる中休みだった。」と締めくくっています。

信仰の道を一途に進む者、倒れて起き上がる者、キリストに出会った人の道は様々です。けれども誰もが人を裁かず、共に助け合う、天国とはそんなところかもしれません。室津の「聖なる中休み」に呼び集められ、一瞬とはいえ天国を先取りできた先輩たちをうらやましく思います。
(宣教部 荏原いずみ)



ナルドの花たより

- 神は高邁な思考や研究の積み重ねで知りうるものではなく、謙遜で、信じて疑わない心をもった「小ささ」によって知りうるのです。(2016/10/01)
- 神は私たちの心を変えることによって世界を変革します。開かれ、信頼に満ちた心に出会う時、神はそこで偉大なわざをなすうるのです。(2016/10/03)
- 世界の多くの地域で、紛争の犠牲となっている無辜の諸民族の人々の悩みと苦しみを、マリアにゆだねます。(2016/10/04)
- いつも私はロザリオの祈りを祈ってきました。それは普通の人々の祈りでもあり、聖人たちの祈りでもあります。そして私の心からの祈りです。(2016/10/09)
- 罰は必ず、希望を併せ持ったものであるべきです。(2016/10/10)
- 喜びをもって生きるためには、怒り、憤り、暴力、復讐心を手放す必要があります。(2016/10/11)
- 今日、アビラの聖テレジアは、私たちが神により近づき、生活を改めるため、もっと祈るよう招いておられます。(2016/10/15)
- 神との友情をはぐくむことが、何ものからも妨げられませんように。(2016/10/17)
- 主よ、私たちをお助けください。平和をお与えください。平和へと導いてください。私たちの母、マリア、私たちのためにお祈りください。(2016/10/18)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート(邦訳)より

2016 年度第 3 回小教区評議会議事録

- ★ 日 時 : 2016 年 10 月 9 日 (日) 12:00～13:30
- ★ 場 所 : 信徒会館 第 4 会議室
- ★ 出席者 : アルフレド主任司祭、議長団、評議員、その他関係者



1. 主任司祭挨拶
2. 協議事項

- (1) アンケート調査の実施について
- (2) 2017 年度活動計画、予算申請および行事予定について
- (3) 高齢者対策について

3. 報告事項

- (1) 「イエズス会教会使徒職委員会拡大会議」(2016 年 9 月 22～23 日 イグナチオ教会) 報告
- (2) 2016 年 10 月度「神戸地区宣教司牧評議会」報告

- ①小教区聖堂耐震診断実施
- ②高山右近関係行事

- (3) 2016 年 9 月度「東ブロック会議」報告

- ①合同堅信式 (2017 年 6 月 11 日 (日) 六甲教会)
- ②神戸地区大会について (東ブロック、北ブロック担当)
- ③市民クリスマス 12 月 16 日 (金) 神戸中央教会

- (4) 地区役員会からの報告

- ①チャリティーバザーについて
- ②教会大掃除と地区役員会⑤は、結婚式のため次のとおり変更する

- 5) その他各部、各会からの報告

(宣教部)

(壮年会、婦人会)

(三日月会)

次回小教区評議会 : 12 月 11 日 (日) 12:00～ 信徒会館第 4 会議室



(右近シンボルマーク)



2016 年度第 4 回地区役員会 (2016 年 9 月 4 日) 議事録

出席者 : アルフレド主任司祭、堤 評議会議長、地区役員



- 1 納涼の夕べ (8 月 20 日) について (企画チーム : 大倉さん、橘さん、林さん)
- 2 壮年会、婦人会合同バーベキュー (9 月 25 日) について
- 3 チャリティーバザー (11 月 13 日) について

4 教会大掃除（11月19日）について

（アルフレド主任司祭より）

次回地区役員会 11月19日（土）教会大掃除終了後



アンケート調査ご協力をお願い

イエズス会に属する4教会（イグナチオ、六甲、祇園、山口）が集まり、今後の10年間の基本方針を作るため、イエズス会教会使徒職委員会拡大会議が開催されています。この会議にあわせ小教区評議会および各専門部会で、『六甲教会の10年後を見据えてどんな対応が必要か?』について、フリーディスカッションを実施し色々なご意見を頂きました。しかしこの問題については全信徒に関わることであり、信徒の皆様のご意見をお聞きすることにしました。

つきましては、下記の要領でアンケート調査を実施いたしますので、ご協力よろしくお願いたします。

なお、頂いたご意見は、「六甲教会の10年後を見据えた対応」に生かしていきます。

記

1. 調査項目

六甲教会の現状と10年後を見据えた取り組みについて

アンケート用紙は、聖堂入口および受付横に置いてあります。

2. 回答期限

2016年11月末日

3. 提出先

聖堂入口および受付横のアンケート回収箱にお入れください。

（小教区評議会議長 堤 ）



<行事報告>

被昇天の聖母の祝日のミニコンサート（8月15日）

8月15日は日本人にとって終戦記念日という特別の日だ。そしてカトリック教会にとっては大祝日にあたる聖母被昇天の日。今年はこの日の10時ミサの後、ドイツを中心に活躍中のソプラノの方のコンサートがあると聞き、とても楽しみにしていた。ところが急用が出来、ゆっくり鑑賞する時間が取れなくなって、今回もぬか喜び・・・とちょっとがっかりしていた。ところが、曲目を見てみると、4曲のみ。しかも、そのうちの一つ、アヴェ・ヴェルム・コルプスはミサ中に歌われるとわかり、後の3曲をどうしても聴いておきたいと思った。

安保恵美さんは、昨年11月にも六甲教会で歌って下さっている。その時も所用で「祈りと音楽の集い」に参加できなかったのが、ワクワクして席に座り直した。ミサの後、すぐに始まったのがアドルフ・アダンの「アヴェ・ヴェル



ム」。初めて聴く曲だが、流麗な響きにびっくり。主聖堂いっぱい音が満ちた。圧倒されるうちに次のメンデルスゾーンのリジーナに移り、こちらも大曲でソプラノを聴いた！！感でいっぱいになった。教会音楽というと、どうしてもバッハのようなシンプルで荘厳なイメージがあるけれど、全く違った印象を受けた。華やかで技巧的、そして豊かな音量・小柄な安保さんから確かに生み出されてくる力強い歌声に、聖堂中が引き込まれるのが伝わる。最後はバッハ＝グノーのアヴェ・マリア。高音の伸びやかさとオルガンが溶け合って、どこからかブラヴォーが聞こえた。後で聞くと、伴奏を務められた三浦さんとは殆ど合わせられる時間がなかったとのこと。安保さんが教会オルガニストの一面も持っておられることを再認識させられた。歌い手と伴奏者の信頼関係が確立していたのだと思う。短いけれど、素晴らしいひと時を頂いたことに、感謝の思いが尽きない。

(久野)



《各部だよ》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📌 地区会

11月19日(土)10:30 役員会

📌 宣教部

11月27日(日)12:00 部会

📌 三日月会

11月21日(月)14:00 ミサと懇親会

教会大掃除 11月19日(土)13:00

お手伝いください。



「いつくしみの特別聖年」 閉会ミサ

日時：2016年11月13日(日) 14:00～

司式：トマス・アクィナス前田万葉大司教

場所：大阪カテドラル聖マリア大聖堂

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 社会活動部より ◆

11月2日(水)10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでもご参加できます。

7日(木)2時 ベタニアの集い イグナチオホール

20日(日)10時ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)

25日(金)9時半 ともしび会 ケーキ作り (イグナチオホールお台所)

※ 炊き出しは 11月はお休みです。(バザー前日のため)

バザーの古着にご協力を!!

バザーの古着を以下の日時に集めます。ご協力ください。

11月5日(土)、6日(日) 信徒会館 2F

(突き当り) 第5会議室の向かい側の部屋

11月12日(土)、13日(日) 信徒会館 ロビー

※古着は、洗濯済、もしくはクリーニングされたものでお願いします。



♪♪ 聖歌隊だより ♪♪

芸術の秋。音楽の秋。聖歌隊ではミサで使う聖歌の練習に加えて、クリスマスの練習を始めています。

聖歌隊は毎年12月23日に行われる「クリスマス音楽の集い」の中で、クリスマスキャロルを披露します。1年のうち、特別なこの時期にしか歌えない曲を、皆様も一緒に歌いませんか？合唱未経験の方、楽譜の読めない方でも大丈夫、発声の指導もいたします。

一緒に声を出して聖歌を歌ってみたい方、新しく聖歌を覚えたい方、老若男女問わず大募集中です。下記の練習日に直接お越しいただくか、聖歌隊隊員までお声掛けください。

また、結婚式、ご葬儀関係の奉仕のメンバーも常時募集しております。

今年は11月に3回の結婚式があります。若い二人の門出を聖歌で祝福できるのも、聖歌隊ならではの大切な活動です。また、ご葬儀にも聖歌隊は聖歌奉仕をします。

聖歌隊員に登録していただければ、教会連絡網と別に聖歌隊連絡で、冠婚葬祭のお知らせをします。空いている時間、可能な時間だけで結構ですのでよろしくおねがいします。

11月の練習

5日(土) 10時~12時 イグナチオホール 20日(日) 11時15分~12時半 聖堂

27日(日) 11時15分~12時半 聖堂

12月の練習

4日(日) 11時15分~12時半 聖堂

18日(日) 11時15分~ クリスマス音楽の集いリハーサル 聖堂

23日(金祝) 14時~ クリスマス音楽の集い本番 聖堂

☆その他 ミサ前練習は毎週日曜日9時~9時半 その日のミサで歌う曲を練習します。

聖歌隊員一同心からお待ちしております。

お問い合わせ先 聖歌隊代表 清水真理子 090-9703-9054

聖体顕示についてのお知らせ

11月1日(火) 諸聖人の祭日 10時~11時30分まで、『聖体顕示』を行います。
ご聖体の前で祈りを深め、私達の日々の暮らしが、神様の愛によって支えられていることを実感したいと思います。また、キリストのもとにとどまって親密さを味わい、主のみ前に心を打ち明け、自分のため、親しい全ての人のため、平和と世の救いのためにもお祈りいたしましょう。多数の皆様のご参加を、お待ちしております。

なお、週日ミサについてのお知らせです。

11月2日(水) 7:00 10:00 死者の日のミサ

11月4日(金) 7:00 10:00 初金ミサ (典礼部)



越年、越冬の炊き出しと須磨夜回り会支援のための

クリスマス チャリティーコンサートのお知らせ

日時：12月3日(土) 13:00 開演

場所：カトリック神戸中央教会・主聖堂

主催：神戸地区社会活動委員会

野宿者支援のために多くのかたのご参加を

お願い申し上げます。 (社会活動部)



◆◆秋の墓参◆◆

11月6日(日)

10時ミサ後

御参詣下さい

《 図書室からのお知らせ 》



高山右近に関する図書(教会報6月号に追加)

☆高山右近の生涯 —— 日本初期キリスト教史 ヨハネ ラウレス 著 聖母文庫

列福に向けて熱意を持って着実に勤めてこられた高山右近列福推進委員会の故溝部修司教様が申請文書の底本として用いられた著書を復刻したもの。

☆右近と歩む祈りの旅 日本カトリック司教協議会 列聖推進委員会

高山右近巡礼のコンパクトな案内書

※ 春に購入した「高山右近の足跡を歩く(三学出版)」が久しく図書室に見当たりません。

所在をご存知の方は図書室入口近くの投書箱に、または教会事務室にお知らせ下さい。

その他の図書案内

☆殉教者—— 日本人初の聖地巡礼者ペトロ岐部カスイの生涯 加賀 乙彦 著 講談社

精神科医にして多くの小説を残す文学者加賀乙彦(現在67歳)がマニラ・マカオ・ゴア・エルサレム・ローマ・アユタヤ…福者ペトロの足跡を辿って現地取材して著した書。

九州での同宿時代、マカオでの失意、ゴアからの船旅でなくペルシャの砂漠を経て聖地巡礼とローマへの旅、イエズス会入会と司祭徐階を果たした後、熾烈な迫害が待つ母国を目指し、タイ・フィリピンでの苦戦、日本への潜入と信徒との交わり、水沢での捕縛と江戸での拷問と殉教を描く。



みんなの広場

四 終

ヨハネ 三好榮之助

11月1日、「諸聖人」守るべき大祝日。11月2日、「奉教諸死者の記念」、嘗てこのように称されていました。この日心ある信者は死者のために「全免償」を何回も稼ぎました。最近聖人といって思い浮かぶのは「コルカタの聖テレジア」か、福者は「ユスト高山右近」か。「聖人」は全教会で記念される人、「福者」は教会の中の一部で記念される人、どちらも肉体の死後今は神の至福に受け入れられた人、つまり天国に受け入れられた人のこと。人は一人残らず死の瞬間に神の裁きを受けると教えられています。汚れがなければそのままテーブルへ、汚れがあると先ず洗濯機に、落とせない汚れがあればそのまま永遠のゴミ箱へ。

「聖人」になれなければ永遠に取り返しがつかない、「聖人」は他人事では済まない自分自身のことです。11月1日と11月2日は一つだと言えましょう。

登山口交差点の東に「援助修道会」の修道院があります。嘗ては「煉獄の靈魂援助姉妹会」と称していたと記憶しています。この土地は田口枢機卿が将来教会を建てるつもりで取得した土地であったとか。イエズス会が学校を始め、信徒が日曜日にはバス停横の路地を下った所の通称「幽霊屋敷」でミサに与るようになったからか、永らく草ボウボウの空き地でした。援助修道会が来ると決まったとき、主任司祭であったブラウン神父様の喜色満面の一言は、「煉獄、が来るよ」。

「死」、「審判」、「天国」、「地獄」。普段余り思うことがないかもしれない「四終」を思い起してみても、わたしたちにとって極めて切実な現実ですから。

教会報 12月号の発行は12月4日(日)です。
原稿は11月20日(日)までに教会受付へご提出ください。FAX及びメールでも受付いたします。
(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>
renraku@rokko-catholic.jp

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
F A X 0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3
発行責任者 アルフレド・セゴビア
編 集 広 報 部